



令和四年

片山定期能七月公演

令和4年7月9日（土）

午後1時開演（午後0時30分開場）

於／京都観世会館
地下鉄東西線「東山」駅下車徒步約7分

▼
9時～17時月曜休館
【最初の一時費500円、以後30分20円】

京都観世会館
〒606-8344
京都府京都市左京区圓滿院勝寺町44
tel.075-771-6111
fax.075-761-6005
HP <http://www.kyoto-kanze.jp>

能 善知鳥 分林 道治

狂言 舟 船 茂山七五三

砧 梓之出 青木 道喜



片山定期能7月公演 [No.72-3]

令和4年7月9日(土)

午後1時開演[午後0時30分開場]

13:00

能 善知鳥 一うとう一

前シテ/老人	分林 道治
後シテ/猪肺の墨	梅田 照熙
子方/猪肺の子	梅田 翠宏
ツレ/猪肺の妻	岡 充
ワキ/旅僧	綾谷 正美
アイ/外の浪の浪人	
前 森田 保美	地図 正邦
小鼓 成田 達志	河村 博重
大鼓 山本 哲也	味方 玄
後見 片山 伸吾	大江 信行
橋本 忠貴	深野 貴彦
	河村 和貴
	大江 広祐
	河村 浩太郎

休憩10分

14:35

狂言 舟 船 (大蔵流) ふねふな

シテ/太郎冠者	茂山七五三
アド/主人	松本 薫
	後見 増田 浩紀

14:50

仕舞 女郎花

シテ/小野姫風の雲	林 宗一郎
松 風	まつかぜ
シテ/松風の雲	片山 九郎右衛門
	地区 橋本 碩道
	河村 博重
	橋本 忠樹
	梅田 翠宏

休憩15分

15:15

能 砧 稚之出

—きぬた・あづさので—

前シテ/芦屋某の妻	青木 道喜
後シテ/芦屋某の妻の雲	片山 伸吾
ツレ/侍女夕霧	福王 知登
前ワキ/芦屋某	中村 宜成
後ワキ/芦屋某	茂山あきら
ワキツレ/従者	
アイ/下人	
前 杉 市和	地図 片山九郎右衛門
小鼓 林 吉兵衛	吉機 正邦
大鼓 河村 大	味方 玄
太鼓 前川 光範	深野 貴彦
後見 武田 邦弘	橋本 忠樹
大江 信行	河村 和貴
	大江 広祐
	河村 浩太郎

17:00頃 終了予定

演目解説

能 善知鳥

上演時間:約1時間25分

旅の僧が越中の立山に立ち寄る。そこは地獄そのままのような景色で、僧は懺悔の心を抱き篤へる。そこへ一人の老人が現れ、自分は去年死んだ「猪肺」が故郷の陰山国外の洞に住む妻子を訪ねて、帰いを願んでほしいと言う。そして証拠に着衣の片袖をちぎって唇に渡し、姿を消す。

やがて僧がその妻子を訪ねると、残されていた着物には片袖がなく、持参した袖を合わせるとひたりと合う。そして僧の手早い、眞剣の雪はやつれた姿を現す。猪肺は生前、「ウツワ」の子鳥を捕まえて親鳥と引合戦した際に死んでいたが子に近づかない。猪肺は殺生の所要の浅ましさを物語り、生前の眞の様子を再現してみせる。さらに地獄の責め苦として、絆になった自分が體になってしまった「ウツワ」に追われて逃げ惑う姿を見せて、憎に助けを求める声だった。「阿澄」、「鶴瓶」とともに、物心の代表作とされる。その中でも、自らの親の愛情と、ウツワの親子の愛情(娘が「うとう」と呼べば子が「やさかた」と答える習性)を重ねたこの曲が最も陰惨な味わいがあり、我々に深いテーマを投げかけるものとなっている。

狂言 舟 船

上演時間:約15分

主人公が太郎冠者を連れて西の宮へ参詣の途中、神崎の渡しに来かかると、太郎冠者は「フナや〜い」と船頭を呼ぶ。主人公が「フネ」と呼ぶようしなめると、冠者は古歌を引っ張り出して「フナ」と詠まれていると主張する。これに対し、主人も「フネ」と詠まれた古歌をもって反駁するのだが……。

能 砧

上演時間:約1時間45分

九州の芦屋の何某は訴訟のために上京してはや三年、国許で待つ妻のことが気になって、侍女の裏腹を疑う。ところが妻は夫の薄情を嘆き、ク画にも辛く当たる。そして蘇武の故事を思い出し、せめてもの慰めにと、自分の想いが届けよからぬ(種)で布を打ちらば、歌を出すのに用いる台)を打つ。夜も受け、砧の音に虫の音や花びら吹きなどが入り交じり、ほろほろと涙が落ちる。さらに都からの便りが届き、この秋も帰国できぬ由を聞いた妻は、病に伏して命を落とす。

妻の死を聞いた何某は急いで帰国をする。そして遺された砧を前に、せめてもの慰めにと、枕の弓によって靈魂を招く。やがて現れた妻の亡靈は、恋慕の執念で死んだために地獄に落ちた夫のことを語り、夫を激しく責めるが、説経の功徳によって感化するのだった。「達羅」同様、待つ女の心情を細やかに描寫した曲ですが、亡靈とのやりとりとしては、夫婦の立場が逆転している。「枕之出」は妻の靈が現れる際に「枕」の音を開く演出が入る。晩秋という季節感を表現する際には「砧」の音も併せ、昇日當の空間を巧みに取り入れた世阿弥の自信作。

次回公演の御案内

片山定期能12月公演

令和4年12月25日(日)

午後1時開演[午後0時30分開場]

能 「富士太鼓」 橋本 忠尉

狂言 「腰祈」 小笠原 由祠

能 「融 魂逐」 片山 九郎右衛門

コロナ対策として必ずマスク着用にて御入場頂きますようお願い申し上げます。

マロビー等にての会話は極力お控えくださいませ。

△出演者等の変更がある場合は御了承くださいませ。

△見所内での静音・録音は固く禁り致します。

△同じく見所内での携帯電話やスマートフォンは、必ず電源をお切り頂きますようお願い申し上げます。

マナー モードも御都合くださいませ。

入場料

一般前売 3,500 円

一般当日 4,000 円

学生 2,000 円

回数券(四枚綴) 12,000 円

チケット取扱所

京都観世会館

9~17時 月休 075-771-6114

片山定期能楽会事務局

10~17時 土日休 075-551-6535

主催/片山定期能楽会

Tel: 075-0088

京都市東山区西之町224

片山能楽堂・京舞保存財団内

Tel: 075-551-6535

Fax: 075-532-2841

